

修多羅小学校・古前小学校の学校統合における 校舎位置（教育委員会案）について

1 統合後の校舎位置（教育委員会案）について

修多羅小学校と古前小学校の統合後の校舎位置（教育委員会案）は、古前小学校とする。

2 決定理由

統合後の校舎位置（教育委員会案）の決定に当たっては、主に統合準備委員会で論点となった「防災・緊急時の対応」「通学」「施設」「学習」「校地内の安全性」の5つの項目を総合的に判断した。

【5項目ごとの評価結果】

（1）防災・緊急時の対応に関すること（3観点）

- ①警察署等の緊急施設までの距離については、両校とも大きな差は見られなかった。
- ②学校までの緊急車両進入のし易さについては、両校とも大きな差は見られなかった。
- ③災害時の校地の安全性としては、両校とも後方に崖を抱えているが、修多羅小学校はイエローゾーンに属しておらず、避難所として全ての災害種別に適応しており、評価が高かった。

3観点のうち、2つは同等、1つは修多羅小学校となり、防災・緊急時の対応の面では、修多羅小学校の評価が高かった。

（2）通学に関すること（3観点）

- ①通学路の最長距離は、修多羅小学校の場合は2.7km、古前小学校の場合は1.6kmであり、古前小学校の評価が高かった。
- ②通学路の高低差は、両校とも大きな差は見られなかった。
- ③校地周辺の状況としては、修多羅小学校正門前の道路の道幅がせまく、坂道で安全上の課題があるため、古前小学校の方が評価が高かった。

3観点のうち、1つは同等、2つは古前小学校となり、通学の面では、古前小学校の評価が高かった。

(3) 施設に関すること (3観点)

- ①校地面積は、修多羅小学校は7,618㎡、古前小学校は12,824㎡であり古前小学校の評価が高かった。
- ②校舎・教室等の状況については、どちらも十分な空き教室を確保しているが、最大教室数や校舎の大きさにおいて、古前小学校の評価が高かった。
- ③見通しなどの安全性において、古前小学校の評価が高かった。

3観点のうち、3つとも古前小学校となり、施設の面では、古前小学校の評価が高かった。

(4) 学習に関すること (3観点)

- ①両校とも周辺の自然環境や騒音、排気ガス等の心配もなく、静かな環境で授業を行うことができ、大きな差は見られなかった。
- ②両校とも学習に利用できる施設の面については、大きな差は見られなかった。
- ③両校とも公共交通機関利用のし易さなどの面については、大きな差は見られなかった。

3観点のうち、3つとも同等となり、学習の面では、評価は同等であった。

(5) 校地内の安全性に関すること (1観点)

- ①校地内の安全性については、北九州市防災アドバイザー及び(一社)北九州法面防災協会に現地確認を依頼したところ、両校とも現状の対策で問題なく、両校に大きな差は見られなかった。

1つの評価観点で見たところ、同等となり、校地内の安全性の面では、評価は同等であった。

第2期学校統合に係る校舎位置決定までの流れ

